

ドキュメンタリー映画

# 百姓の 百の 声

みんなつまづく  
そして前を向く  
転んでは  
立ち上がる  
復元力



「百姓の百の声」ちちぶ上映会

2023年9月3日(日) 小鹿野文化センター ホール

(埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野167-1)

開場 13:00 上映13:30~(130分) 上映後トークショーあり

[トークショーゲスト]

料金 秩父限定チケット 1000円(当日1200円)

株式会社雨風太陽 代表取締役

高橋博之氏

産直アプリ「ポケットマルシェ」運営

Peatix(WEB購入) 1200円 Peatixでの購入はこちらから→



秩父限定チケット販売場所

[小鹿野町] 長若集学校・カフェギャラリー杏仁・MOTO GREEN CAFÉ・一ニ三屋・とうふ工房水むら

[秩父市] cucina salve・ラパンノワールくろうさぎ・みんなの畑 [皆野町] Mahora稲穂山 [横瀬町] なないろごはん



©プロダクション・エイシア

主催・お問い合わせ先：百笑会 TEL 080-5019-3773(玉川)／後援：小鹿野町・小鹿野町教育委員会・ちちぶエフエム株式会社／協力：深谷シネマ

# 百姓の 声の

『百姓とは何でも自分のできる人』

秩父郡市にも百姓の先輩がたくさんいて、私はそれに憧れて農業をしています。だって百姓ってクリエイティブだし、ポジティブだし、とにかくカッコいい！どんな壁があっても転んでも、ただただひたむきに目には見えない自然と作物と向き合っただけのりこえていく。仕事にも人間関係にも町づくりにも通ずるヒント、さらには強くたくましく生きるヒントは、もしかしたら『農業』にあるのかもしれない。食べることは生きること。農業してる人もしてない人も、社会人も学生さんも、老若男女、食べて生きてるすべての人に観てもらいたい！それだけの価値がある映画です。

百笑会代表 玉川 寿々子(小鹿野町在住)



覚悟を決めた人の強さを感じ、

出てくる方々は皆んな凄くいい顔で笑っていて、  
印象的だった。(小鹿野町・30代 カフェスタッフ)

それぞれの農業哲学と農業の取り組みをリアルに伝えるドキュメンタリー。

仕事をする為の考え方について、とても勉強になりました。

農家だった父と祖父と子供の頃に遊んだ畑を思い出しました。

(小鹿野町・30代 パフォーマー)

90代の方が「10年後の自分に期待している」というシーンに、チカラをもらえました。

「農」とともに生きる人たちの言葉は、

生きる人すべての心に響くと思います。(長壽町40代主婦)

百姓の底力がすごい。

日本の農業は国や企業参入で守られてきているのではなく、百姓達の自然への感謝の気持で支えられていることを多くの人に知ってもらいたい。

(秩父市・40代 主婦)

東京から移住をして心惹かれていた農業。

この映画を観て腑に落ちました。

やっぱり、お百姓さんはカッコいい！

(長壽町・40代 自営業)



## ご覧になった方の ことば

めっちゃ面白い映画で脱帽しました！

普段食べている農作物の裏にある農家の熱い想いを知って、農作物への思いが変わった！

(小鹿野町・30代 公務員)

自分の知らない農業の情報や自分で

も生かせる知識を頂けました。

先人たちが守り残してきた物を次につなげこれからの農業に生かさせていたら、心豊かに暮らせそうですね。(小鹿野町・50代 農家)

この映画は、個人や企業の権利という  
弱肉強食という現代の奪い合いの世界から、

分かち合い共に創る未来に進む  
という生き方を提示してくれて

いる。(小鹿野町・50代 農家)

お百姓さんは賢いなあ！

ああいう賢い人たちが大事にすれば、  
日本はもっといい国になると思いました。

(小鹿野町・70代 元教師)

「農」と「食」は繋がっています。最近はその認識していない人も増えていきます。畑や田んぼが身近にある秩父に住む方々には、是非この映画を観ていただいて「全国には面白い百姓が沢山いるなあ。秩父はどうか？」と関心を持っていただけたらいいなあ。秩父の百姓も映画みたいに元気でもっとも素敵だから。

(皆野町・50代 公務員)

制作・配給 プロダクション・エイシア

Tel 042-497-6975

Mail info@asia-documentary.com



監督:柴田昌平 プロデューサー:大兼久由美

出演:日本全国の農家

語り:3人の農家の女性と監督

監修:百合田敬依子 撮影:柴田昌平・大兼久由美

音楽:Dan Parry・甘茶 編集:高橋慶太 音声:柳田敬太

題字:財前謙 メインビジュアル:阿部結

カラーグレーディング:堀井威久麿 制作デスク:宮川尚子

制作協力:農文協(一般社団法人 農山漁村文化協会)

制作・著作:プロダクション・エイシア